差出人: 前島伸一郎 <shinichiromaeshima@gmail.com>
日付: 火曜日, 2024 年 7 月 16 日 6:10
宛先:
件名: 第 29 回認知神経科学会学術集会の現地開催中止に関する重要な報告
理事・評議員の皆様

本来であれば、第 29 回学術集会大会長として学術集会の報告をするために理事会に出席させていただくべきところ、今回、会議開催の連絡や出席の依頼もなく、その機会をいただけなかったことについて、まずご報告申し上げます。この点に関しまして、非常に残念に思っております。

昨年 7 月の理事会・評議員会にて、第 29 回認知神経科学会学術集会の開催を拝命して以来、本年 6 月 29-30 日に国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）で学術集会を開催すべく、準備を進めてまいりました。しかし、準備の終盤になって編集委員会から複数の要望が届き、繰り返しの調整を行い誠心誠意対応させていただいたにも関わらず、最終的に用意したプログラムを認めていただけず、開催 1 ヶ月前になって、突然、山口修平理事長より、理事、評議員、会員の先生方に対し、本学術集会の現地開催を中止し誌上開催になる旨のメールが送られました。理事長と学会事務局に対しては、学術集会運営委員会からも現地開催の準備状況を逐一お伝えしておりましたが、誌上開催に変更するという重大な決定について、事務局から事前に何の連絡や相談もなく、我々はこの決定に一切関与・同意しておりません。学会のホームページから本学術集会に関する情報が抹消されているのを確認し、驚愕した次第です。

本決定は、理事会や評議員会での議論を経た正式なものではなく、かつ、我々学術集会運営委員会の意見も全く考慮されておらず不当であると考えますし、そこまでに至る理事長や編集委員会からの要求も不適切と言わざるを得ません（添付資料）。特に学術集会直前のプログラム変更要求に対しては、すでに発表日程が決まり、企業からも支援をいただいているなか、講演の準備や宿泊・交通手段の確保を行って下さっている講師の変更は 1 ヶ月前の段階では困難な部分があり、最大限の調整は行うが全ての要望にはお応えできないことをなんとかご理解頂きたいとお伝えした結果、学会の現地開催を阻止するという前代未聞の強硬手段に出られました。

大会長ならびに運営委員一同は、若い医療者や研究者に認知神経科学の魅力を伝える場として、現地開催に向けて全力で準備を進めてきました。しかし、学会から学会員に「現地開催中止」の通達が出てしまった状況では取り返しがつかないと判断し、現地開催を断念することとなりました（実際に何人かの学会員から、既にホテルや飛行機などをキャンセルしたとの連絡がありました）。

さらに、理事長や事務局にこの後の対応や誌上開催の内容・スケジュールなどについて質

問するも、現在に至るまでに返信をいただけておりません。通例から考えると、学会誌 1 号（含、抄録）には協賛して下さった企業や病院の広告が掲載される予定でしたが、その内容も我々は全く知らされておらず、既に印刷会社にお送りしている広告が掲載されるかどうかすら不明です。笹氣出版や事務局に問い合わせても、「直接のやりとりには応じません」と回答されるのみで、出版のスケジュールや内容については一切教えて頂けませんでした。また、学会事務局からは第 29 回認知神経科学会学術集会の大会長を名乗ることについてクレームの連絡があり、学会のホームページを見たところ、第 29 回認知神経科学会学術集会は誌上開催（会長代行…）となっており、学術集会長の名前が本人の知らない間に消去され、何の相談もなくいつのまにか解任され代行されているという事態になっており、驚きを隠せません。

加えて、どのような演題が誌上開催に採用されたかも答えて頂けず、かつ（知らない間に）会長も交代させられていたという状況の中、学会事務局から、特別講演の荒井氏と招待講演の SEWO SAMPAIO 氏ご本人に何の連絡も取らずに勝手に誌上開催に同意したとみなし、両氏が同様の講演を行うことに対し、「二重投稿にあたる恐れがあり重大な倫理的問題を生じる可能性があるため、講演をやめさせるように」という通告がありました。両氏に確認したところ、お二人とも「学会員でもなく、誌上開催に自分の演題が採択されたか否かを全く知る立場にないにも関わらず、理事長または学会事務局から誌上開催の諾否に関する正式な連絡が一度もない。現時点において誌上開催に関しても学術誌への掲載に関しても一切の同意は行っていない、従って、誌上開催に関する演題を速やかに取り下げ学術誌に掲載しないよう求める」、という申し出がありました。これに対し、山口理事長と事務局に対しその旨の連絡を行い、山口理事長からは「両氏の誌上発表の件、承知し、取り下げとさせて頂きます。印刷が始まっているようですので、間に合わない場合は HP 上で取り下げ報告を行い、次号学会誌で取り下げを明記いたします。」との返答を頂きました（7 月 2 日）。それにも関わらず、7 月 9 日になって、「講演等の学術誌掲載等の取り扱いについては編集委員会での判断となりますので、編集委員会へ事情をご説明の上、直接ご回答いただくべきと考えます。」と事務局からメールがきました。理事長と事務局から上記のような正式な返答を頂き、両氏にお伝えしていますので、本件につきましても学会内で適切に処理がなされるべきだと考えます。

このような状況下で事後処理が進まず、当方としては大変困惑しております。 現時点においては、私どもの手元に学会誌が届いておりませんので、広告料に関して各企業の担当者様に事情をご説明し、お待ちいただいている状況です。広告が掲載されなければ、当然、返金手続きを取らねばなりません。しかし、学術誌の内容や広告掲載の問合せにもお答え頂けず、大変困っております。また、1 ヶ月前まで現地開催を予定し準備しておりましたので、ホームページの作製料や支払いシステムに関するキャンセル料、ポスター・看板・ネームプレートなどの会場備品等に対し費用が発生しております。我々は最後まで現地開催の努力

を続けており、準備に時間と費用を要していることは理事長や学会事務局に常々お伝えしてきました。それにも関わらず、このような事後処理が生じることを承知の上で、学術集会大会長並びに運営委員会と十分な議論を行うこともせず、我々の同意なく直前に現地開催を中止し誌上開催を決定された学会の責任において、費用をお支払い頂きたいと考えます。必要経費につきましては、添付資料（支出の内訳）をお送りいたしますので、ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。 理事・評議員の先生方には大変ご心配をおかけして申し訳ありません。何卒、事情をご理解いただき、適切なご対応を賜りますようよろしくお願い申し上げます。以上、これまでの経緯をご存じない理事・評議員の皆様に現状を知っていただきたく文書を送らせていただきました。

私どものお願いをまとめると次の２点です。
１．誌上開催決定までにかかった費用の、学会事務による支払い
２．会則に則った、学会の運営

最後になりましたが、学会におかれましては組織運営の正常化を切にお願い申し上げます。

敬具

第 29 回認知神経科学会学術集会
会長　前島伸一郎
副会長　佐藤正之　安野史彦
運営委員長　伊藤直樹　大沢愛子
長文となりましたので、以下に今回、学術集会を運営するにあたり支障となったポイントを列挙します。

1. 学術集会の会長に連絡のないまま会長不在でプログラム委員会が開催されていたこと
2. 学術集会直前になって、実現不可能かつ不当なプログラムおよび演者変更の要求が繰り返しなされたこと
3. 我々に何ら落ち度はないと考えられるにも関わらず、理事長から「編集委員長に謝罪すれば現状のプログラムで現地開催を確定させる」と言われ、やむなく謝罪の意を示したにも関わらず、その約束を反故にされ、相談なく誌上開催の決定を敢行されたこと
4. 大会長の同意なく一方的に現地開催が中止され、かつ、その決定に大会長が同意しているかのような表記がなされたこと
5. 学術集会の開催と大会長の任は、会則にのっとり理事会・評議員会を経て正式に決定されたものであるにも関わらず、会則を無視する形で一部の意見のみで開催形式が変更され、一方的に大会長が代行されたこと

6.　現地開催の中止により、若い医療者や研究者にとって、認知神経科学の魅力を知り、公正で自由な科学的議論をおこなったり、学習を行う機会が奪われたこと
7. 誌上開催で「会長代行」が設置（HP に掲載）されたにもかかわらず、誌上開催への参加・学会誌への抄録掲載について、「誌上開催事務局」から発表者に対して何らの確認作業も行わず無断で誌上発表を決定したこと
8. 長寿研で同時期に開催したシンポジウムは刊行物でないにもかかわらず、「二重投稿」「重大な倫理的問題が生じる」といういわれのない批判を行い、発表を中止させようとしたこと
9. 直前に誌上開催を決定し、関係者に多大なる心配や迷惑をおかけしたにも関わらず、「誌上開催事務局」や学会事務局は必要不可欠な事務的手続きについて協力する姿勢を一切みせず、事後処理が行えず道義的な問題を生じていること